

3年道德通信

第2号

第2回『小さな出来事』

1917年冬のある日、「私」が人力車に乗っていると、そのかじ棒に老婆が引っ掛かり倒れました。車夫は助け起こそうとしますが、「私」は老婆の狂言だと思い、早く行くように言います。しかし車夫は、老婆に肩を貸して派出所を目指します。このとき「私」は、車夫の後ろ姿が急に大きく見え、自分の卑小さをひしひしと感じました。「私」は、派出所から出てきた巡査に銅貨をひとつかみ渡し、車夫にやるように言います。このあと、「私」はこの銅貨の意味を自問します。

「故郷」の作者、魯迅（ろじん）の小説を通して、誰に対しても公平に接するためにはどんな考え方が必要かを考えました。

みんなの意見

「恥を教え」「奮起を促し」「勇気と希望を与えてくれる」とは？

- ・ 車夫にはできても自分には親切ができなかったこと。
- ・ 倒れた老婆を置き去りにしたこと。
- ・ 困っている人に優しく思いやりを持って接することができなかった。
- ・ 私も車夫のような立派な行動をとれる人になりたい。
- ・ これからは進んで助けよう。
- ・ 自分の行動を見直す。
- ・ 自分からはなかなか動けないけれど、この出来事が背中を押してくれる。
- ・ 車夫が自分より人として偉大だった。
- ・ みんなが車夫のような行動がとれるようになりたい。

誰に対しても公平に接するためには、どんな考え方が必要だと思いますか。

- ・ 互いにリスペクトし合い、みんなを大切な存在と思うこと。
- ・ 人を見ただ目で判断しないで、困っている人を見つけたら、助けに行くことが大切。
- ・ 小さな出来事でも、しっかり相手のことを考える。
- ・ 優しい心。広い心。偏見をなくす。人それぞれの考え方があることを理解する。
- ・ 自分の非は認めて、相手に誠意を持つことが大切だと思った。

**誰に対しても公平に接するためには、
どんな考え方が必要だろう。**

